



黒松内の自然を再発見！

フナセンター賞 成果発表会

(黒松内町生物多様性奨励事業)

ブナ林内に横たわる「枯れ木」や、朱太川にすむ「ヤツメウナギ」
黒松内の自然には、まだまだ知られざる生き物のいとなみがあります。
研究者が見つけた、黒松内の自然の新たな一面を、聞きにきませんか？

日にち: 2026年2月26日(木)

時 間: 17:00~19:15

場 所: 黒松内町役場 1F コミュニティホール

どなたでも参加できます (参加無料・入退場自由)

黒松内町では、町をフィールドに研究を行う研究者を応援する「黒松内町生物多様性奨励事業（通称：ブナセンター賞）」を、平成8年から行なっています。この発表会では、今年度・昨年度のブナセンター賞受賞者による、黒松内の自然に関する最新の研究成果を、わかりやすく紹介します。

Time Table 2026 / 2 / 26 (木) @ 役場1F コミュニティホール

17:00~ **ブナセンター賞 授賞式**

17:15~ みえだ ひろのり
三枝弘典氏 中間発表 テーマ：朱太川のヤツメウナギ
(北海道大学環境科学院)



かつては捕まえて食べていたほど身近な生物だったヤツメウナギ。今では数が激減して、絶滅危惧種に指定されています。そんな中、2024年に道内で「新種のヤツメウナギ」が見つかりました。朱太川には今まで2種類のヤツメウナギが記録されていますが、はたして「新種」もいるのか？どのくらい絶滅の危険があるのか？を再評価します。今回は、その研究計画と経過を報告します。

18:00~ ふかさわ ゆう
深澤遊氏 成果発表 テーマ：ブナ・ミズナラの枯れ木の腐朽菌
(東北大学大学院)



枯れ木は森の中でたくさんの生き物のすみかとなります。とくに、枯れ木を食べて分解する「腐朽菌ふきゅうきん」は、森の中の炭素循環や、枯れ木にすむ昆虫やコケなどの生物相を左右する重要な存在です。本研究では、黒松内のブナとミズナラの枯れ木に含まれる腐朽菌を、全国の森と比べてみました。ブナ・ミズナラの枯れ木が黒松内の森林生態系のなかで果たす役割について紐解きます。

18:45~ **質問タイム**

19:15 **閉会**

ブナセンター賞の選考委員

選考委員長/中村 太士 氏
(北海道大学 名誉教授)

日生態系管理学の第一人者。主に森林と川のつながりを研究されており、流域本の全体の生態系の再生事業にも多く携わっておられます。本町の環境保全施策にも多くの助言をいただいています。

関 健志 氏
(日本生態系協会 専務理事)

元日本鳥類保護連盟の研究員。歌オ湿原の購入(日本ナショナル・トラスト協会との共同購入)に多大なご協力を頂きました。経済と自然を結びつけ、持続可能な社会実現をめざす生態系保全のキーマン。

中静 透 氏
(森林総合研究所 所長)

熱帯林や温帯林において、気候変動が生態系に与える影響を研究。日本のブナ林研究の第一人者でもあり、東北のブナ林を中心に、雪とササとブナの関係などを研究されてきました。

春木 雅寛 氏
(北大総合博物館 植物館ラウンジ)

40年以上にわたり、北海道の植物と土壌の関係を研究。ブナ北限域でもブナと土壌の関係を調査中。歌オブナ林を伐採の危機から救った館脇操教授の教え子でもあります。

鷲谷 いづみ 氏
(東京大学 名誉教授)

保全生態学の第一人者。里山や水辺など、生物多様性の保全や再生に関する研究は多岐にわたり、著書も多数。黒松内町の小学5年生の教科書にも、著書から文章が採用されています。

**みなさまのご参加
お待ちしております！**

※今年はオンライン参加は
ありません



【お問い合わせ】
黒松内町ブナセンター
TEL: 0136-72-4411